

科目名		産業保健マネジメント学特別論文指導	
科目責任者	森 晃爾	(産業保健経営学 教授)	
担当者	河村 洋子	(安全衛生マネジメント学 教授)	
担当者	立石 清一郎	(災害産業保健センター 教授)	
担当者	永田 智久	(産業保健経営学 准教授)	
担当者	永田 昌子	(両立支援科学 准教授)	
開講時期:	1～3年次	単位数:	8 単位
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>労働者の健康リスク等の産業保健上の課題に対して、健康経営およびマネジメントシステムの手法を活用した産業保健プログラムの提供や評価に関して、計画の立案・遂行および論文作成等、一連の研究プロセスを自律的に行うことができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 企業や事業場の健康リスクやニーズに関する課題を明確化できる。 2) 事業場の課題を解決するために、健康経営および労働安全衛生マネジメントシステムの手法を利用できる。 3) 事業場の産業保健上の課題に関する研究仮説を主体的に見出すことができる。 4) 産業保健上の課題に関する研究仮説をもとに研究計画を立案できる。 5) 研究計画の遂行において、事業場や労働者の同意を得るとともに、積極的な参画を可能とするためのコミュニケーションを適切に図ることができる。 6) 自分のテーマについて、疫学的手法、質的研究法、および双方を用いた混合型研究法などの幅広いアプローチを活用し、介入や評価を行うことができる。 7) 産業保健プログラムの評価について、健康リスクの側面、健康状態の側面、経済的側面など、多面的な評価を行うことができる。 8) 個人の心理、他者との関係性や集団的規範などの社会心理的環境あるいは職場の物理的環境など学際性の高い産業保健マネジメント的なアプローチを科学的に検討することについて、その意義を主体的に論述できる。 			
● 評価方法	プロセス50%および論文の内容50%で総合評価する。		
● 参考文献	自らが積極的に参考文献を検索・知識の集約を行うが、指導の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業計画(適宜個別対応)

内容	担当教員
カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図るとともに、自身の研究テーマとの整合性等を主体的に検証させ、報告書や論文における考察する能力を養う。	森 河村 立石 永田(智) 永田(昌)
特定の企業や事業場の事例を対象とした議論をもとに、存在する労働者の健康上の課題の明確化、産業保健体制の構築、課題解決方法に関する企画・実施方法の向上を図る。	森 河村 立石 永田(智) 永田(昌)
企業や事業場に存在する健康課題の解決に関して、主体的な科学的検討によって研究仮説を明確にできるよう、指導を行う。	森 河村 立石 永田(智) 永田(昌)
研究テーマについて、研究デザインの作成、結果の解釈は主体的に行わせるが、必要に応じ科学的論理思考を用いて研究を遂行できるように指導する。	森 河村 立石 永田(智) 永田(昌)
研究テーマについて、得られた結果に基づき論文作成を主体的に行われるが、必要に応じ指導を行う。	森 河村 立石 永田(智) 永田(昌)

● 授業内容

<p>(概要)</p> <p>特定の事例を対象とした議論を行うとともに、研究計画の立案や遂行、結果の分析について本人の主体的な検討を指導し、研究の全般的な遂行能力を養う。論文の執筆においては、論文の独創性・科学的意義・社会的意義を遂行しつつ、結果から導き出された新たな事実を検証し、完成させる。</p> <p>(森 晃 爾)</p> <p>事業場に存在する様々な健康障害リスク等の産業保健ニーズに対して、産業衛生学上のエビデンスとマネジメント手法を用いた問題解決の方法を主体的に検討させ、さらにそれらを一般化した研究課題として明確にするための科学的論理思考ができるように指導する。自身の研究テーマについて、得られた研究結果と既存の知見を主体的に比較検討させ、論文作成を主体的に行なわせることによって、十分な科学的論理思考をもとに考察する能力を養う。また、産業保健マネジメントに関するカンファレンス、抄読会等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図る。</p> <p>(河 村 洋 子)</p> <p>人の行動の本質的特徴を基盤とする組織開発的視点から、安全衛生マネジメントに関する理論、方法・手法・アプローチを検討する。受講生が実際に直面している課題事象をもとに、さらに課題を昇華して解決や緩和につながるために有用な実践的かつ現場に直結する方法論を中心とした研究の展開を意図して指導する。特に、国際的に多様な社会課題解決や組織開発に生かされている概念でありアプローチであるポジティブ・ディバイアスとそれを具現化するグループファシリテーション(リベレイティング・ストラクチャーズ)を軸に、輪読やグループワーク、現場実践の機会を通して学修及び指導を進めていく。</p> <p>(立 石 清 一 郎)</p> <p>災害発生時に労働者は様々な健康障害にさらされる危険性がある。これらの健康障害を予防するためには、災害発生時の対応のみならず、事前に予防可能な災害本部の中に産業保健の仕組みが含まれていることが必要である。受講者らは、災害発生時の平時の備えから、災害発生時の産業保健的活動、次の災害への備え、という災害対応全過程にわたる健康障害発生メカニズム、予防のための方策について講義、ディスカッション、抄読会等を通じて深い学びを得る。また、受講者らはこれらの学びの中から実務的に発生する事業継続計画作成に関する必要な要素、災害発生時の健康障害発生リスク評価の手法、などから主体的に研究課題を作成し、エビデンスに基づいた産業保健活動の在り方全般を学ぶ。また、災害時の対応特有の被災者への対応などから支援活動の本質を理解し、一方通行とならないコミュニケーションスキルの向上を目指す。</p>

(永田智久)

事業場に存在する様々な健康障害リスク等の産業保健ニーズに対して、産業衛生学上のエビデンスと問題解決の方法を主体的に検討させ、自らデータ解析を行い、さらにそれらを一般化した研究課題として明確にするための科学的論理思考ができるように指導する。自身の研究テーマについて、得られた研究結果と既存の知見を主体的に比較検討させ、論文作成を主体的に行なわせることによって、十分な科学的論理思考をもとに考察する能力を養う。また、産業保健マネジメントに関するカンファレンス、抄読会等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図る。

(永田昌子)

様々な健康特性を持つ労働者の就労継続を支援し、健康確保と仕事を両立するための健康状態の評価および支援に関連する産業衛生学上のエビデンスと問題解決の方法を主体的に検討させ、自らデータ解析を行い、さらにそれらを一般化した研究課題として明確にするための科学的論理思考ができるように指導する。自身の研究テーマについて、得られた研究結果と既存の知見を主体的に比較検討させ、論文作成を主体的に行なわせることによって、十分な科学的論理思考をもとに考察する能力を養う。また、両立支援に関するカンファレンス、抄読会等を介してプレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図る。